

2025 年度事業計画書

(2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

食品を含む物価上昇は止まる気配がなく、生活困窮世帯に対し食支援の必要性がますます高まっています。それに対応するため食品ロス削減と食品寄附を促進し困窮世帯の食品アクセスを確保しようとする政策も進められています。

食品寄附促進のためには、受け皿となるフードバンク団体の信頼性を高めることが重要となってきます。フードバンク関西は食品の適切な管理と適切な活用によりいっそう取り組んでいきます。

寄贈された食品がより多くの必要とされる人のところに届き、生活の改善に役立てられよう運用の効率化を図り、各方面と協力、連携を強化して取り組みを進めていきたいと考えます。

近い将来高い確率で南海トラフ地震の発生が予測されています。フードバンクの役割の一つに災害時の食品提供があります。事務所のある地域または近隣で災害が発生した際にどのように連携してどのように動くのか検討し備えています。

I. 2025 年度の重点目標と達成のための指針

(1) 生活困窮者への食支援拡充

① 子育て世帯への食支援について、新たに「子ども元気便」事業を行う。

- 兵庫県内で食支援を担う団体や子ども食堂の少ない地域の子育て世帯の中で支援を必要とする世帯を当法人が独自に選定し、年 4 回、食品の詰め合わせを宅配で無料で送る事業「子ども元気便」を開始する。
- これまでの「子ども元気ネットワーク」事業の食品発送のやり方を活用して行う。
- 今年度は世帯の選定は、「子育て世帯応援食品パック」に応募した世帯の情報を精査して行う。

② 子育て世帯応援食品パック事業の継続

- 物価高騰が続く間は学校の長期休暇ごとの年 3 回実施を目指す。
- 食品を送ると同時に人との繋がりや温かさを伝えるよう心掛ける。
- 食品を通じた助けあいとして企業や一般市民の賛同・協力を増やす。

③ 兵庫県内または近隣のフードバンクとの連携を通じて困窮世帯支援の拡充を図る。

- フードバンクはりま、フードバンクあこうなど県内のフードバンクとの連携を強化し、定期的または不定期に食品を提供し、県内にフードセーフティネットを拡充することに繋げる。
- 大阪、京都、奈良のフードバンクとも必要に応じて食品のやりとりをし、互いの需要に沿った食品の確保に繋げる。

④ 主食の米やおかずになるものの安定的な確保を目指す

- 政府備蓄米の交付を活用し、主食のお米を困窮世帯や福祉施設、支援団体に滞ることなく提供する。

- フードドライブで困窮者支援に役立つものを提供していただけるよう啓発活動を促進する。
- 食品衛生管理の徹底やトレーサビリティの確保、リスク管理に努め、食品提供企業の安心を得ることにより食品提供の促進を図る。
- 食品の寄贈者に対して寄贈食品が有効に活用されていることを発信することにより食品寄贈へのモチベーションを高める。

(2) 寄贈食品の有効活用

- 当法人の受取団体への定期提供他、県内の生活困窮者を支える活動をする団体に食品を提供することにより、受益者の生活向上を図る。

(3) 効果的な広報活動

- ホームページのリニューアルにより、当法人の活動理念と活動内容を明確に伝え、支持者拡大に繋げる。
- 紙媒体（フードバンク関西ニュース等）での活動報告も有効なツールとして、継続して支えてくださる方の確保に努める。
- 当法人および他団体主催のイベント参加、講演活動により、対面・対話型でフードバンク活動への理解を広める。

(4) 行政機関・関連団体・企業との連携

- 行政や社会福祉協議会の困窮者支援担当部署に、バラエティーに富んだ当法人の食支援が困窮世帯の自立支援に有効であるとの認識を高め、自立支援の取組の中で入口としての食の活用を促す。
- フードパントリーを実施している民間の団体と当法人、または団体間で情報交換を行い、地域の中で要支援世帯をサポートしていく繋がり作りを進める。
- フードバンク団体との連携
日本フードバンク連盟や他のフードバンク団体と情報交換やコミュニケーションを図る機会をもち、政策提言、フードバンク活動の普及・促進を図る。
自然災害発生時の連携の取り方について検討し、万が一の際にいち早く動ける体制の構築を目指す。

(5) 法人運営

- 受取食品の減少、物流問題に備え、事業や運用を見直し整理を検討する。
- 配送を担うボランティア不足の解決が見込めないことから、企業、団体等への委託や協力体制の構築などを模索していく。

II. 事業毎の 2025 年度計画

(1) 食品の受取

① 企業への働きかけ

- 働き方改革の影響、関税をめぐる世界的な混乱から景気の後退が懸念される中、既存支援企業からの食品確保に努める。

- 各種業界団体、行政の協力を得ながら新規企業開拓と既存支援企業の関係性強化に努める。
- 提供食品引取のための運搬業務について工夫する。
- 政府備蓄米を継続的に交付いただけるよう関係先と連携して働きかける。
- 各種イベントや企業の食品展示会に積極的に参加して、フードバンク活動周知を広める機会とする。

② 一般個人や食品関連企業以外からの食品寄贈拡大に向けて

- フードドライブに着手しようとする企業、団体等に、入手したい食品を集めるフードドライブ開催とその継続を呼びかけていく。

③ 食品の受け入れ体制の強化

- 新に近隣に温度管理のできる倉庫を借りる。

(2) 食品の活用

① 社会的弱者を支える非営利団体等への食品の無償分配事業

- 長期にわたり食品を提供している団体で当法人からの食支援の役割を終えた団体は食支援を終了し、新たに困窮者支援を行う団体との入れ替えを行っていく。
- 定期的な提供のほかに、受け取りを希望する団体に臨時で食品を提供することにより受贈食品の有効活用を図る。
- 日常的に受取団体とのコミュニケーションを図り、受取団体の活動と食品活用状況を把握し、最終受益者の生活の向上に有効活用されるような食品提供に努める。

② 「食のセーフティネット」事業

<行政・社会福祉協議会を通じて>

- 行政や社会福祉協議会の生活相談担当部署に対して、当法人からの食支援は、要支援世帯の状況に応じた中身の充実したものを提供し、生活困窮世帯の生活再建へのモチベーションを高める効果を担当部署に認識してもらう。
- それにより、当法人の食支援活用を促進する。また新たに事業協定を結ぶ地域の拡大に繋げる。

<個人からの直接依頼への対応>

- 行政機関や社会福祉協議会等の相談機関を通じての支援を原則とする。
- 生命にかかわるような緊急の場合、行政機関につながりにくい事情がある場合、制度の狭間と思われるような場合には、その都度判断して原則 1 回限り、直接宅配で食品を送付する。
- 行政や民間の支援団体をできる限り紹介して、それらにつながることを勧める。紹介できる民間支援団体や自治体の支援制度の情報の収集に努める。

③ 子育て世帯支援事業

<「子ども元気ネットワーク」事業>

- 連携団体自体がパントリーを行うことも増え、要支援世帯が食品を受け取ることに依存してしまうこ

とも懸念されることから事業の見直しを行う。すなわち、毎月の送付ではなく3か月に1回とし、対象世帯を小学生以上の子どもがいる世帯とする。

- 連携団体とのコミュニケーションをとりながら、困窮世帯の自立支援の枠組における食支援の効果の検証や、自立に向けた伴走の在り方などについて互いに共有する機会を設ける。

<「子ども元気便」事業>

- フードバンクやフードパントリーなど食支援を受けられる団体が少ない地域から困窮ひとり親世帯を当法人が選定して、希望する世帯に登録してもらい、1年間、3か月に1回宅配で食品を無料で送る事業を行う。
- 子ども元気ネット登録世帯と一緒に毎週約20世帯に食品を発送する。
- 今年度実施して事業の成果や世帯選定の方法などについて検証し、この事業を継続するかどうかを判断する。

<「子育て世帯応援食品パック」事業>

- 食品を含む物価高騰が続いていることから、夏休み・年末年始・進級進学時期の年3回実施する。
- 支援を必要とする世帯にアプローチできるよう情報の提供先の開拓を進める。
- 回を重ねるごとにリピーターが多くなることから、応募が多く世帯を選定する必要がある際にはこれまでの提供回数を考慮する。
- 協力企業や個人を子育て世帯支援の輪に参加する機会として支援を呼び掛けていく。
- ボランティアが普段の活動以外に参加できる場であり、モチベーションの向上やコミュニケーションの機会として活用する。

(3) 広報活動

① 年次報告書、ニュースレターの発行

- 2024年度年次報告書を6月に発行して支援者・関連団体・企業等に発送し、年間の事業や収支の報告をする他、活動紹介等に活用する。
- フードバンク関西ニュース52号を6月に、53号を2月にそれぞれ発行して支援者・関連団体・企業等に送付する。活動報告の他、支援企業・団体や支援を受けた方の様子、トピックを伝えることにより、継続的な支援を得ることにつなげる。

② ホームページの更新

- 活動の変化に応じた内容の更新を行い、法人の活動理念や方針、活動内容を的確に伝える。
- 「最新のお知らせ」にタイムリーに情報を挙げて、継続的な閲覧者に最新の情報を届けるよう努める。

③ SNSを使った情報の拡散

- 日々の活動をSNSに投稿することで、色々な方面から関心を持つ人を増やす。
- 協力企業・団体や受取団体との連携の様子も発信することで、関係各所の閲覧者のつながりから情報が拡散し、フードバンク活動が普及することを期待する。
- 当法人のニーズや不足していることなどを発信することで支援に繋がることを期待する。

④ イベントの開催や他団体主催のイベントへの参加

<当法人主催のイベント>

- フードバンクおよびフードバンク関西の活動を、より多くの市民の方に知ってもらう機会として開催を検討する。
- 「第8回 いのちとくらしの映画祭&講演会」（他団体との実行委員会で開催）

<他団体主催のイベントに参加>

- 御影クラッセ広場でのイベント参加（4月）
- 兵庫県農林漁業祭（10月）
- その他要請があれば参加を検討する。

⑤ 講演活動・出前事業

- 要請があれば、学校・生涯学習・社内研修の場に赴き、日本の食をめぐる課題やフードバンク活動について理解を深めていただく機会とする。

(4) 関連機関との協働

① 兵庫こども食堂ネットワーク

- 今年度いっぱいを目途に当法人が事務局を担うことを終了、「兵庫こども食堂ネットワーク」は解散または機能縮小を検討し、それぞれの地域ごとのネットワークの立ち上げを促す。
- 必要な場合の食支援や情報提供・共有は引き続き行っていく。

② 「ひょうごフードサポートネット」

- 2023年2月に運用が開始された「ひょうごフードサポートネット」サポーターの1団体として、県内の関連団体と情報交換や共有を図り、団体間での連携を強化することにより、県内の困窮者支援の枠組みの中で当法人の役割を担っていく。

③ フードパントリー実施団体のネットワーク

- フードパントリー実施団体についての情報を収集し、必要なところへ食支援を行っていく。
- 各地のパントリー実施団体と当法人との情報交換会を年数回開催し、各フードパントリーの活動の状況を知るとともに、団体間での連携や支援の在り方を話し合う機会とする。
- 地域でのフードパントリーのネットワークができてきたところには、積極的に連携関係を進めていく。

④ フードバンク間での連携強化

<兵庫県内および近隣のフードバンク団体との連携>

- 毎月1回、定期的にフードバンクはりまに食品を配送し、当法人から食品提供していた姫路方面の母子支援施設に提供する他、姫路方面の困窮者支援に活用してもらう。
- 県内のフードバンクに食品を提供することによって、県内の生活困窮者への支援拡充を目指す。
- ふーどばんく osaka やフードバンク奈良、セカンド・ハーベスト京都などの近隣のフードバンクと食品のやり取りなどにより互いの活動を補足することで、近畿圏の要支援者への支援拡充を図る。

<日本フードバンク連盟などとの連携>

- フードバンクをめぐる情勢、政策について、必要に応じて随時フードバンク間での情報交換・共有を図る。また、日本フードバンク連盟や日本フードバンク協議会などとともに政策提言を行う。
- フードバンクの信頼性を高める取り組みを連盟や協議会とともに行う。

III. 法人運営

(1) 運営費の安定的な確保

① 継続的に支援くださる賛助会員の確保

- こまめな情報発信や活動報告によって、既存の賛助会員からの支持継続と新規の賛助会員獲得を図る。

② 助成金、補助金申請

- 事業遂行において必要が生じた際には助成金・補助金の申請を検討する。

(2) フードバンク活動継続のための見直し

- 将来的にデリバリーボランティアが足りなくなるのに備えて、コストコ引き取りを受取団体に一部依頼する運用などについて検討を開始する。
- 各事業について優先順位を検討し、方向性を確認する。
- 物流と拠点の課題解決に向けて、あらゆる可能性を探っていく。

(3) ボランティア・スタッフ間で法人のミッションの共有とモチベーション向上を図る

- 日々の活動状況や運営に関することの発信により、法人の活動目的や活動状況を共有し、法人の一員としての意識を高める。
- ボランティア同士の交流や研修の場としてのボランティアミーティングを年数回開催する。
- それぞれの部署または部署間での業務連絡を確実に行う。
- 担当者からの提言を取り上げるなどして、作業効率の向上につなげるとともに、やりがいをもって活動に参加できる環境を作っていく。
- イベントなどへの参加は、外部の人に法人の活動を話すことで、自らの活動を理解する機会となり、ボランティア同士の交流にもなるので機会を捉えて参加していく。

（４）災害発生時にどのように対応するかについて、ワーキンググループを立ち上げて検討していく。

- 現行の行政等の緊急事態時のマニュアルを知る
- ノウハウを持つ団体から知識を得る機会を設ける

フードバンク関西は、食べ物を通じて人と人をつなぎ、誰もが安心して暮らせる社会を目指します。残念ながら格差は拡大してきている状況ですが、命の糧であるだけでなく人の気持ちを明るくする食べ物の力を最大限活用してよりよい社会になるよう、今後も関係各機関にご協力をいただきながらフードバンク活動を継続してまいります。

今後も皆さまのよりいっそうのご支援と協力をお願いいたします。